



第65回全国農業コンクール(毎日新聞社主催、大阪府・大阪市特別協力、農林水産省など後援)に出場する20代表に、京都市伏見区の「こと京都」(園芸部門)が選ばれた。京の伝統野菜の九条ねぎ栽培・加工に特化。積極的な首都圏への販路開拓や、地域での雇用創出などが評価された。山田敏之代表(53)は「農業を事業として展開してきた。取り組みを全国に広げたい」と語る。6月30日に大阪市で開かれる全国大会で発表する。
【岡崎英遠】

九条ねぎ栽培・加工「こと京都」山田敏之代表



収穫された九条ねぎを見る山田代表—京都市伏見区で

園芸部門 農業コン20代表に選出

1995年に家業の農業を継ぐためアパレル関係の仕事を選んだ。そこで周年栽培が可能になるUターン。2年間、父親について一から農業を学んだが、個

人経営の農家の収入の低さに驚いた。そこで周年栽培を開始。収入を上げるためカットねぎなどの

加工にも取り組んだ。東京のラーメン店などに営業をかける。ライメンブームの追い風もあり、事業は一気に広がった。

東日本大震災による計画停電や、厳冬による不作で売り上げが減少した時期もあった。リスクを軽減するため乾燥ねぎなどの加工品に力を入れた。

昨年度は自社・契約農家合わせて約46畝の農地で年間約1000トンの九条ねぎを生産・加工し販売するまで成長。現在は社員・パート合わせ約140人を雇用し、今年度は15億円の売り上げを見込む。

今後の目標は人材育成と更なる事業拡大。「まずは九条ねぎで安定した生活基盤を作ってほしい」と13年からは独立支援研修制度を設け、若手の育成に力を注ぐ。今年度は冷凍設備も導入し、静岡県磐田市の耕作放棄地で大規模な白ねぎ栽培にも挑戦する。

「農家が買いたたかれるのではなく、利益が出たらきちんと還元されるような仕組みを作りたい。将来的にはねぎ生産の全国シェア10%を占めたい」と意気を上げる。

雇用創出、若手育成も